

## 2017年度地域貢献活動計画

### 1. 地域貢献活動に関する本学の基本方針

地域との連携による社会貢献及び地域交流等をとおして、地域に根差し地域とともに歩む大学及び短期大学作りを進める。

### 2. 実施計画

- (1) 地域連携室を中心に組織的・計画的な地域貢献活動を展開する。
- (2) 地域貢献活動のノウハウの蓄積及び地域貢献活動に関する研究等を通して、新たな知の生成とその共有を促進するとともに、広報活動を展開する。
- (3) 地域貢献活動を通して、地域とのつながりを強める。
- (4) 重点活動の展開を中心に、地域貢献活動のカリキュラム化のモデルを生成する。
- (5) 女性活躍をキーワードとした創業、地域活性化を図るための基盤整備を行う。

### 3. 到達目標

#### (1) 2018年度までの目標

- ① 組織的・計画的な地域貢献活動が展開されている。
    - ✓ 地域貢献活動計画が有効に機能している。
    - ✓ 自主的な地域貢献活動が展開され、それぞれの目標が達成されている。
    - ✓ 必要な申請と実施報告がなされている。
  - ② 地域連携室が学内外に周知され、安定的な業務が展開されている。
    - ✓ 教職員に地域連携室の位置づけや業務が理解され、活用されている。
    - ✓ 自治体・地域諸団体等が地域貢献活動の窓口を知っており、利用している。
    - ✓ 業務の進め方が明確になり、年度毎に改善を図ることができている。
    - ✓ 地域連携室スタッフの育成が行われている。
  - ③ 知の生成と共有・情報発信が円滑に行われている。
    - ✓ 地域連携協議会、地域貢献活動交流会が定期的に開催され、成果を上げている。
    - ✓ 調査研究が計画的に実施されている。
    - ✓ 広報活動が有効である。
  - ④ 重点施策が進展している。
    - ✓ COCプラスが当初の成果を得ている。
    - ✓ 子ども・子育て支援に関する地域貢献活動とカリキュラム化が進展している。
  - ⑤ 女性活躍をキーワードとした創業、地域活性化に関する取り組みのアウトラインが完成している。
- ① 2017年度
    - ✓ 学長の命を受け、副学長を中心に的確かつ迅速な地域連携室の運営と改善活動が展開されている。
    - ✓ 本学の地域貢献活動と地域連携室が地域に周知されている。
    - ✓ 学生が地域貢献活動に誇りをもってとりくみ活動間の交流が進んでいる。
    - ✓ 予算措置を伴う活動を展開している。
    - ✓ 私立大学改革総合支援事業タイプ2の必要事項をクリアし、申請を行っている。
  - ② 2018年度
    - ✓ 到達目標を目指して各種事業が展開されている。

### 4. 課題別総括と次年度に向けた課題提示

地域連携室を中心に、下記の諸課題に取り組む。

A 組織的・計画的な地域貢献活動の展開と振り返りの促進

(1) 学内体勢の確立・整備

(ア) 「地域連携室の運営に関する要項」に基づいて地域連携室の体勢と業務を確立する。

① 地域連携室業務の増加に伴い室員を増やす方向で検討する。

(イ) 地域連携室の運営管理を行う地域連携室運営協議会の運営を確立する。

① 地域連携室運営協議会のメンバーに学生を加えることができるか検討する。

(2) 個々の地域貢献活動の支援活動の開始

(ウ) 活動報告書から支援課題を抽出し、地域貢献活動に対する助成等を検討する。

(エ) 活動報告書の Web 掲載を継続する。

B 知の生成と共有，広報・情報発信

(3) 専門的な技術，情報，知識，経験等の蓄積と教職員による共有の活動

(オ) 本学の地域貢献活動をデータベース化して，Web 掲載を継続する。

(カ) 地域連携に関する教職員間の情報共有と意見交換の場として，地域連携協議会，地域貢献活動交流会を実施する。

(4) 調査研究の実施

(キ) 2017 年度共同研究費による調査研究を進める。

(5) 広報

(ク) 地域連携室及び地域貢献活動に関する広報を展開する。

Web の更新，パンフレット作成，プレスリリースの活用  
イメージキャラクター，キャッチコピーの確定と活用  
小学生向けの大学紹介パンフレットを作成する

C 学内外のつながり

(6) 地域とのつながりの強化

(ケ) 自治体，地域諸団体等との間に，連携協定を締結する。

北九州市，大学間など

(コ) 自治体，地域諸団体等との意見交換の場として地域懇談会を開催する。

(サ) 窓口業務を行い，業務手順等の確立を目指す。

① 地域からの要望を取りまとめ，学内のシーズとの結びつけを迅速かつ適切に行うため，地域連携室の窓口業務の手順確立を目指す。

D 重点活動の展開

別に定める。

以上